



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

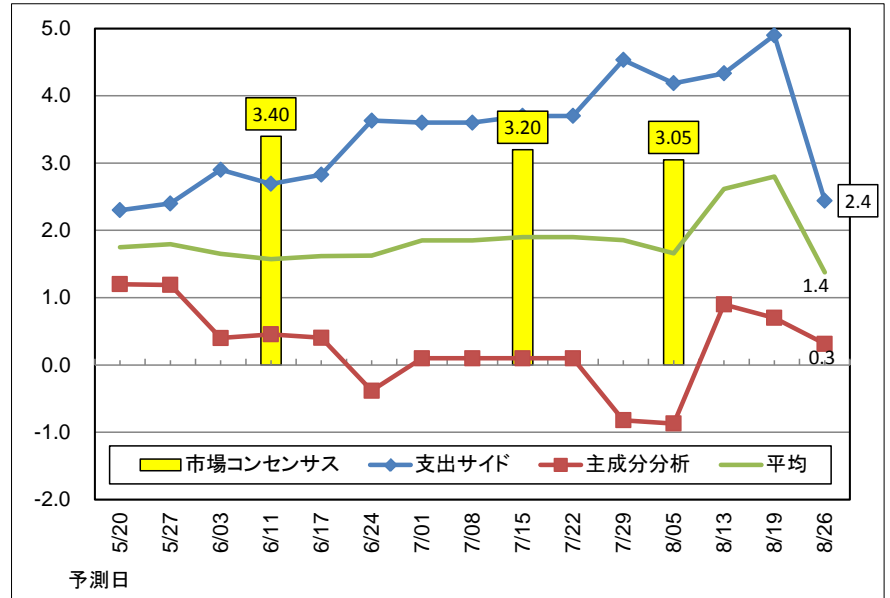
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年8月26日)

ポイント

- ▶先週(8/19-8/23)は、重要な7月の貿易統計が更新された。これは純輸出の予測に影響を与える。
- ▶7月の貿易収支は13ヵ月連続の赤字となり前年比+93.7%と大幅に拡大。貿易赤字は市場予想を上回り、単月として過去3番目の大きさ。
- ▶季節調整済値も29ヵ月連続の赤字となり前月比+42.3%拡大。2ヵ月ぶりの増加。7月の貿易赤字は4-6月平均比+28.7%拡大した。4-6月期は5期ぶりに縮小し7-9月期も引き続き縮小が期待されたが、7月は予想外の悪い結果となった。
- ▶重要視している支出サイドからの成長率予測は純輸出の下方修正から今週は大幅に下方修正(+4.9%→+2.4%)された。一方、生産サイドの成長率予測は小幅の下方修正。今週末には7月の統計が集中的に発表される。生産サイドの成長率が上方修正されるか注目している。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年7-9月期(%, 前期比年率換算)



<7月の予想外の貿易赤字の結果、7-9月期の成長率予測は2%台に低下>

先週(8/19-8/23)は、7月の貿易統計、6月の全産業活動指数及び景気動向指数(改訂値)が更新された。これらのデータは純輸出及の予測に影響を与える。

7月の貿易収支は13ヵ月連続の赤字となり前年比+93.7%と大幅に拡大。貿易赤字は市場予想を上回り、単月として過去3番目の大きさ。季節調整済値も29ヵ月連続の赤字となり前月比+42.3%拡大した。2ヵ月ぶりの増加。7月の貿易赤字は4-6月平均比+28.7%拡大した。4-6月期は5期ぶりに縮小(前期比-17.5%)し7-9月期も引き続き縮小が期待されたが、7月は予想外の悪い結果となった。

貿易収支を地域別にみれば、対米貿易黒字は前年比+18.6%増加し7ヵ月連続のプラス。対米輸出では自動車为好調である。対アジア貿易収支は6ヵ月連続の黒字となったが、同-67.9%大幅減少した。対アジア輸出は対米や対EU向けに比して勢いが弱い。対EU貿易収支は7ヵ月連続の赤字となったが、EU経済が4-6月期に7期ぶりにマイナス成長から脱したため、対EU輸出は持ち直している。

重要視している支出サイドからの成長率予測は純輸出の下方修正から今週は大幅に下方修正(+4.9%→+2.4%)された。一方、生産サイドの成長率予測(参考値)は小幅の下方修正(+0.7%→+0.3%)にとどまったため、両モデルからの予測値の乖離幅は縮小してきた。今週末には7月の統計が集中的に発表される。生産サイドの成長率が上方修正されるか注目している。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690